

滑川町文化財マップ

木造阿弥陀如来坐像 国指定・有形文化財・彫刻
観音菩薩及び勢至菩薩立像 県指定・有形文化財・彫刻

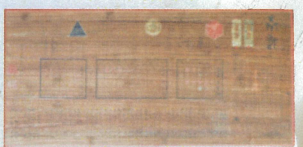
和泉に所在する泉福寺の木造阿弥陀如来坐像は、国指定重要文化財（旧国宝）です。ヒノキの割阿造という技法で作成され、像内に建長6年（1254年）の仏師定生房の修理銘があります。定生は京都宇治の平等院鳳凰堂の仏像を作った定朝の流れを汲む仏師です。阿闍持である観音、勢至菩薩は県指定文化財となっています。こちらでもヒノキの割阿造で定朝様の流れを汲む作風です。仏像の拝観を希望する場合は文化財保護のため滑川町教育委員会への事前の申請が必要となります。



天神山横穴墓群 県指定・記念物・史跡
天神山横穴墓群は、かつては5基開口していたとされますが、そのうち4基が埋められ現在開口しているのは1基のみとなっています。この開口している1基は砂質泥岩をくりぬき、平面形が扇形で幅・長さともに2.44mで、左側壁に接して棺台が設けられています。天井部はアーチ状を呈し、羨道部の中心に排水溝が掘られています。指定を受ける前には地下電気探査が行われ、その結果開口している1基のほか24基ほどの横穴墓の存在が推定されています。



小林三徳算額 町指定・有形文化財・歴史資料
成安寺馬頭観音堂にある（現在は成安寺内で保管）算額は、和算学者現在のところの数学教授であった小林三徳が元治2年（1865）60歳の時に奉納したものです。小林三徳は、幼い頃から算学に励み、郷土の人たちなどに広く教えた人物でその門人（弟子）が多かった人物です。算額を奉納した目的は、自分の解いた問題と答を背いて神仏の加護を感謝し、あわせて算学の発展を願い奉納したとされています。内容は立体図形を扱ったもので立方体・球・三角錐の問題と答が書かれています。三徳算額は、現在は原則的には、公開は行っていません。



打越遺跡出土縄文時代草創期遺物 町指定・有形文化財・考古資料
民間の保養所建設に伴って発掘調査が行われた打越遺跡から出土した1万年以上前の縄文時代草創期の土器です。打越遺跡から出土した草創期の土器は約400点あり、そのうち爪で文様をつけた爪形文土器などの文様がつけられている土器が約250点あります。発掘調査により縄文時代草創期の住居跡1軒や葬生時代の住居跡3軒が確認されました。



真福寺鐙口 町指定・有形文化財・歴史資料
現在成安寺で保管されている真福寺鐙口は明応4年（1495）西郡太郎により奉納されたとする銘があり、大きさは径20.8cmです。この鐙口は、永祿3年（1560）上杉謙信の小田原攻めの際に動員されたとされる神山氏が出陣にあたり、菩提寺の真福寺の鐙口を陣饗として持ていき、寒川付近で討死して、顕慶寺に葬られた際に副葬品として埋められたと考えられ、その後掘り起こされ真福寺に戻ってきたものです。神奈川県寒川町の古文書にはこの鐙口が真福寺に戻った経緯が書かれており、それによると天保3年（1837）3月に寒川神社の近くにあったとされる顕慶寺の松の木の下から掘り起こされ、翌年2月に連絡を受けた真福寺の僧家2人が、鐙口を受け取る替わりに顕慶寺に奉納する鐙鉢の代金3分を持っていたとされています。真福寺鐙口は、現在は原則的には、公開は行っていません。



家形埴輪 町指定・有形文化財・考古資料
月輪古墳群12号墳からはほぼ完成形で出土した家形の埴輪で高さ81.2cm、幅が47.9cmあります。屋根は寄棟造で棟の頂部に鯉魚木が4本つた家が表現されています。また、扉が両面に付いておりそれぞれ内開きになっています。壁部の四隅に縦方向の突起がついており、その四隅を4条の横方向の突起が部位によって段違いになって結び、基部を含めて5段の壁が表現されています。横方向の突起は、押縁と呼ばれる壁を支える部材を表現していると考えられます。



高柳家文書 町指定・有形文化財・古文書
高柳家文書は、幕末以降村役人となる、明治初期には名主となりその後戸長も務めた高柳家に伝わる文書です。この文書は、幕末～明治にかけての支配、土地、租税、村政、戸口、産業、商業、交通、社寺等に関することが記載されています。



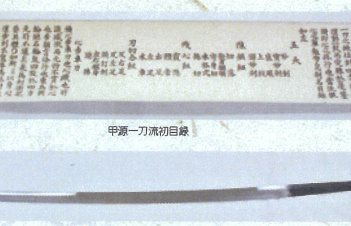
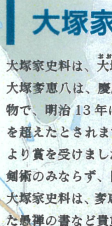
天保七年銘高屋敷沼樋管 町指定・有形文化財・考古資料
天保7年（1836）銘のある樋管で羽尾地区にある高屋敷沼にて使用されていた樋管です。



昭和五年銘長沼樋管 町指定・有形文化財・考古資料
昭和5年（1930）10月銘のある樋管で福田地区阿表の中山地内にある長沼にて使用されていた樋管です。



大塚家史料 町指定・有形文化財・歴史資料
大塚家史料は、大塚孝恵八に関する史料を中心とした大塚家に伝わるものです。大塚孝恵八は、慶応2年（1866）に甲斐一刀流宗家の逸見四郎長英に師事し、宗家直伝の目録を受け、慶応3年に旧月輪村の大塚家に購入した人物で、明治13年に宅地内に剣道場を建て、明治16年には左右社を設立し社長となりました。近郷の子弟に剣術や学芸を教え、その門下は2,000人を超えたとされます。明治17年の秩父事件の際は、幕後鎮圧のため門弟数十人を引き連れ、小川町農越方面の警戒にあたり、その功績により県知事より賞を受けました。剣術のみならず、旧月輪小学校長や旧宮前村初代、3代の村長の地部会議員、県会議員も務めました。大塚家史料は、孝恵八の愛刀とされる天保2年銘富士大和介正光作の刀や鉄錆地62間周布や当時の近郷との関わりを示す門弟帳、多くの揮毫等を行った墨陣の書など貴重な資料が多く残っています。



円正寺古墳群 こまがた1号、2号、3号 町指定・記念物・史跡

円正寺古墳群は和田川右岸の小台地上にあります。現在分かっている古墳は6基ですが、以前は多くの古墳が分布していたとされています。こまがた1号墳は全長約30mの軌立貝式前方後円墳で、前方部は南東方向を向いています。1号墳から採集された埴輪片や石室の存在が推定されることから古墳時代後期の6世紀後半頃の時期に造られたと考えられます。2号墳・3号墳は円墳ですが、2基とも破壊が進み旧状を留めていません。学術的な発掘調査は実施されていませんが、石室に使用されたと思われる渡灰岩が露出しており、墳丘を囲む埴輪列の存在が推定されています。



No.	指定	種別・種類	名 称	所在地または所在の場所	指定年月日
1	国	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	滑川町和泉 1681
2	県	有形文化財	彫刻	観音菩薩及び勢至菩薩立像	滑川町和泉 1681
3	県	記念物	史跡	天神山横穴墓群	滑川町和泉 4532-4ほか
4	県	記念物	史跡	天神山横穴墓群	滑川町和泉 3218-3ほか
5	県	記念物	天然記念物	新古川源頭五岳神社社叢	滑川町伊古 1242
6	町	有形文化財	建造物	伊古神社	滑川町伊古
7	町	有形文化財	建造物	伊古神社	滑川町伊古
8	町	有形文化財	彫刻	伊古神社	滑川町和泉 812
9	町	有形文化財	古文書	伊古神社	滑川町伊古 1242
10	町	有形文化財	古文書	伊古神社	滑川町伊古 501-4-4
11	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉 1202-1
12	町	有形文化財	歴史資料	伊古神社	滑川町和泉 1205
13	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉 407-1
14	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉
15	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉 2006-3
16	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉 750-1
17	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉 763-4
18	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉 763-4
19	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉 763-4
20	町	有形文化財	歴史資料	伊古神社	滑川町和泉 1679（成安寺境内 1205で保管）
21	町	有形文化財	歴史資料	伊古神社	滑川町和泉
22	町	有形文化財	考古資料	伊古神社	滑川町和泉
23	町	有形文化財	歴史資料	伊古神社	滑川町和泉 461
24	町	有形文化財	歴史資料	伊古神社	滑川町和泉 1074-1
25	町	記念物	史跡	伊古神社	滑川町和泉
26	町	記念物	史跡	伊古神社	滑川町和泉 4690-1
27	町	記念物	史跡	伊古神社	滑川町和泉 213-1、2・和泉 3842-1、他
28	町	記念物	史跡	伊古神社	滑川町和泉 1486-3
29	町	有形文化財	有形文化財	伊古神社	滑川町和泉 1734
30	町	有形文化財	有形文化財	伊古神社	滑川町和泉 418-1
31	町	有形文化財	有形文化財	伊古神社	滑川町和泉 418-1
32	町	有形文化財	有形文化財	伊古神社	滑川町和泉 1547-1
33	町	有形文化財	有形文化財	伊古神社	滑川町和泉 1205
34	町	有形文化財	有形文化財	伊古神社	滑川町和泉 763-4
35	町	有形文化財	有形文化財	伊古神社	滑川町和泉 763-4
36	町	有形文化財	有形文化財	伊古神社	滑川町和泉 1924ほか
1	県	県指定	県指定	伊古神社	滑川町和泉 777号8-1ほか、滑川町和泉 2153ほか
2	県	県指定	県指定	伊古神社	滑川町和泉 5344ほか
3	県	県指定	県指定	伊古神社	滑川町和泉 5344ほか